

木曾義仲公ゆかりの地

〔木曾署〕 木曾義仲（幼名・駒王丸）は、約八百年前の平安時代末期の武将で、河内源氏の一門、源義賢の次男で一・一五四年に誕生した。源頼朝・義経とは従兄弟にあたる。



旗拳天満宮（平家追討旗拳の地）

父義賢は、叔父との対立によって討たれ、当時二歳の駒王丸にも命の危機が迫るが、畠山重能らの計らいで信濃国木曾谷（現在の長野県木曾郡木曾町）に逃れ、中原兼遠の庇護の下養育され十三歳で元服、木曾次郎義仲と名乗った。

一一八〇年四月、後白河法皇の第三皇子、以仁王が全国に平氏打倒を命じ、八月に伊豆で頼朝が、九月に信濃国で義仲が挙兵し、各地を転戦した後、一一八三年五月富山・石川県境にある俱利伽羅峠で、平維盛と激突圧勝し、七月末平家一門は都落ちし、義仲は比叡山にいた後白河法皇を保護して京に入った。

都の人々は傲慢な平家を追い出してくれた英雄として義仲軍を喝采で迎え、東方（木曾）から日の出の勢いで上洛した義仲を朝日將軍（旭將軍）と讃えた。

一一八四年一月、従四位下、征東大將軍に任ぜられる（義仲が自ら任命させたとも言われている）が、同月源義経などが率いる鎌倉軍に討たれ、近江国粟津（滋賀県大津市）で最期を迎えた。

義仲は「信濃の国」（長野県歌）に、県出身者の一人として詠われている。また、義仲が育った木曾郡日義村（平成十七年十一月一日から木曾町日義となり消滅）は、「朝日將軍義仲」に由来し明治七年に命名された地名である。

（参考文献：「木曾義仲のすべて」鈴木彰・樋口州男・松井吉昭編著）



林昌寺（中原兼遠の菩提寺）



徳音寺（一族の菩提寺）

義仲館（資料館）



県歌 信濃の国 浅井冽作詞（一部）
 旭將軍義仲も 仁科の五郎信盛も 春台大宰先生も 象山佐久間先生も 皆此国の人にして 文武の誉たぐいなく 山と聳えて世に仰ぎ 川と流れて名は尽きず

◆義仲館へのアクセス方法

〔公共交通機関〕

JR中央本線宮ノ越駅下車徒歩十分

〔自家用車〕

中央自動車道中津川IC（国道十九号線経由約一時間四十分）、長野自動車道塩尻IC（国道十九号線経由約四十分